

発行 佐久市有機農業研究協議会 (発行責任者：夏川周介) 【構成】佐久市・JA 佐久浅間・佐久総合病院・佐久市農業委員会臼田地区委員会
(事務局) 長野県佐久市臼田787 (一財) 農村保健研修センター内 TEL 0267-82-5800 FAX 0267-82-5801 URL <http://nouson-rhtc.jp/>
活動の紹介は <http://nouson-rhtc.jp/yuukinougyo/> 佐久市有機農業 検索

佐久市堆肥製産センターの

堆肥の上手な 使い方



ポイント

- ① 堆肥の量は1㎡当たり1～2kg程度がよい。
(はじめの頃は1㎡当たり3～4kg程度)
- ② 種まき・定植の1か月前に散布し土とよく混ぜる。
- ③ チッソ分等は畑に応じて補給する。

1. 「健康な土」をつくろう

「健康な土」の3条件をご存じでしょうか。

- ① 物理性：水はけ、水もちがよい
- ② 化学性：pH、肥もち、養分バランスがよい
- ③ 生物性：土のなかの動物・微生物が豊か

この3条件のなかで最も大切なのは物理性です。細かな土の粒が集まった状態(団粒構造)になるとすき間ができ、保水性や透水性がよくなり、生物も多様化します。団粒構造をつくるには土の粒を接着する「のり」が必要で、それには緑肥、有機質肥料、堆肥などを使うと効果的です。



2. 堆肥の使い方

近年講演会講師をお願いしている東京農大名誉教授の後藤逸男先生によると、家畜ふんが入った堆肥を10a(1000㎡ 約300坪) 当たり1t(1000kg) 畑に入れば作物に必要なリン酸とカリは充分。ただし、チッソだけは不足するので補う必要があると言われています。チッソ分が足りるほど家畜ふん堆肥を使うとリン酸やカリが過剰となってしまいます。後藤先生は、過剰な肥料や堆肥の使用によって土壌が肥料過剰(メタボ) となり、これが土壌病害を助長すると注意をうながしています。

3. 土壌診断を活かした土づくり

全国に先駆けて住民参加のもと、生ごみを分別・収集して堆肥の原料にし、これに牛フンとモミガラを混ぜて発酵させ、良質な堆肥を生産してきた佐久市堆肥製産センターの堆肥(現在はきこの栽培残渣も入れている)は、「健康な土」づくりに大きな力になってきました。このことは当協議会の実験農場においても証明され、堆肥を沢山使ったおいしい作物を育て収穫してきました。

ところが、当協議会が数年前から取り組んでいる「土壌診断を活かした土づくり」における実験農場の土壌診断結果は、いずれもリン酸とカリの過剰、苦土(マグネシウム)の不足で、養分バランスが崩れているというものでした。後藤先生の研究を裏付ける結果です。そこで、土づくりの方法を次のように改めました。

- (1) 佐久市堆肥製産センターの堆肥量を10a当たり1～2tとする。
- (2) 不足しているチッソを菜種油粕で補給し、苦土肥料も入れる。
- (3) 土の物理性の改善、養分過剰の緩和などを目的に緑肥を導入する。

当協議会は今後も調査研究を継続し、pHとECの測定などの土壌診断について、また堆肥の正しい使い方について広く普及することをめざしています。

土づくり、堆肥や肥料の使い方について知りたい方は、お気軽に実験農場に問い合わせてください。

問い合わせ：実験農場 電話：82-5966

佐久市堆肥製産センターのご案内

営業日 平日 AM9:00～PM4:00 定休日 日曜日・祝日
堆肥販売 1kgあたり7円(堆肥を入れる袋の準備、詰める作業は各自で)
問合せ 佐久市堆肥製産センター(0267-82-8064) / 佐久市臼田支所経済建設環境係(0267-82-3113)

※当センターの堆肥の肥料効果の目安
1kg当たり チッソ2g、リン酸16g、カリ13g程度
(成分検査報告書<H29.11.13>より)

平成30年度
有機栽培農園
利用者募集

土にふれおいしい野菜を 育ててみませんか



野菜を育て味わいたいと思っている方はいませんか。農業体験を通して安心して安全な食を理解していただくために、当協議会では、農園を市民に開放しています。毎年利用者から「自分で育てた野菜を食べることができるのは楽しい」という声が聞かれます。はじめての方でも大丈夫です。

- 場 所** 佐久平総合技術高等学校臼田キャンパス東、佐久総合病院佐久老健西側の圃場
- 募集区画** 24区画(1区画約40㎡) ※原則1戸1区画
- 使用料** 1区画年間3,000円 ※使用料納入後に途中解約した場合は、使用料の返金はありません。
- 使用期間** 平成30年4月7日から11月末日
- 申込期間** 3月12日(月)から20日(火)の平日
(一財)農村保健研修センター窓口にて申込用紙に必要事項を記入。結果は後日お知らせいたします。
※新規申込者を優先。応募多数の場合は抽選により決定。利用上の規則を確認して申込して下さい。
- 開園式** 4月7日(土)午前10時より、実験農場管理棟にて区画割り抽選、利用上の説明、農園の栽培指導など

問い合わせ (一財)農村保健研修センター 電話 0267-82-5800

学習会開催

土のpHと養分を 測ってみましょう



多くの作物はpH5.5～6.5の範囲であれば土の養分をよく吸収します。酸性度、アルカリ度がともに強すぎても養分の吸収が悪くなります。また、肥料をまき過ぎて養分が多く残っていると作物の根の活力が下がってよく育ちません。土の電気伝導度(EC)を調べると、土の養分量の目安がつかめ、無駄なく肥料を使うことができます。

このpHとECは専用のメーターで簡単に調べることができます。当協議会は3年前より測定と学習の活動を行っており、皆さんが持ち寄った畑やハウスの土を測定し、土づくり・肥料の使い方についてアドバイスします。

- 開催日時** 第1回 4月11日(水) 集合9時半：12時終了
第2回 7月 5日(木) 集合9時半：12時終了
第3回 11月 ※9月発行の本紙でお知らせします。

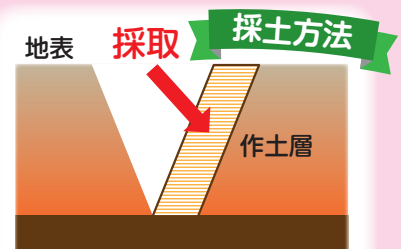
会 場 当協議会・実験農場管理棟
(一財)農村保健研修センター西側

参加費 1試料200円(一人2つまで。当日持参。)

申込先 実験農場 Tel0267-82-5966 平日9時～17時受付
※各回20土壌試料で締め切ります。

担当講師 長野県佐久農業改良普及センター主査 佐々木深雪
当研究協議会・実験農場長 川妻干将

事前に測定したい土を採り、よく乾燥し細かくして茶碗一杯お持ちください。



地表のごみ等を取り除き、上下の量が等しくなるよう深さ10cm～15cmで柱状に採る。1つのほ場で4～5カ所から採土し1つにまとめる。